

新しき 年の始はじめの 初春の
今日降る雪の いや重しけ吉よ事ごと

大伴家持

裏面もご覧下さい。

一月
生命の言葉

新しい年の始めの初春の今日、雪が降っている。この降り積もる雪のように、どうか良いことが重なっておくれ。

『万葉集』

大伴家持 (おおとものやかもち)

七一八〜七八五年。奈良時代の官吏、歌人。『万葉集』の編纂者といわれる。この歌は天平宝字三年(七五九)の元旦に歌ったもの。この前に、家持は左遷され因幡の国守に赴任する。しかし、身の不遇を嘆くのではなく、新年にあたり堂々と力強い希望を込めた歌を詠んだ。どんなときも新年には心新たに一年の幸せを祈りたいものである。

寒椿咲く頃のご参拝、皆さまの願い事はきつと神さまに届きます

東京都神社庁

<http://www.tokyo-jinjacho.or.jp/>



遷宮で 結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮